2024年　５月　１３日

和光大学地域連携研究センター
　センター長　野中浩一　殿

代表者氏名　小林猛久

研究プロジェクトの名称【□2023年度新規プロジェクト　◆（2022）年度からの継続プロジェクト】
＊上記にチェックしてください＊

研究目的
和光大学の学生や教職員との連携により地域活性化を実現したいという企業や市民活動団体、各種行政機関との連携プロジェクトの創出とその運営や評価を行うシステムを構築して、組織的かつ継続的に地域活性化を働きかける。

プロジェクト所属メンバー　（氏名の右の欄に、本学専任教員＝教、共同研究員＝共と記入してください。）

小林猛久	教	倉方雅行	教	堂前雅史	教	岩本陽児	教
山田貢	共						

プロジェクトの概要（480字以内）（学内外に向けた分かりやすい表記で記載をお願いします。）
　これまでの8年間の成果として、2015年の共通教養科目「地域デザイン」新設、地域の農業生産法人との連携による社会と教育現場が融合した人材育成システムの構築や地域活性化へ貢献するシステムの構築、地域の特産品である禅寺丸柿を使った果実酒や万福寺人参を使ったエール（発泡酒）といった新商品の開発・生産・販売といった実体験型学習の実現などをすることにより、学生の学習意欲の向上や地域経済の活性化の有効性を大きく示すとともに、結果的にその経験から地域企業に就職した学生もあり、地域に若者を根付かせる事例ともなった。
　このように、事業の成果として地域活性化を実現するためには、地域に若者が定住し経済的に安定した生活を送ることができるシステムが必要となっている。しかし、単独の授業プログラムではその規模に限界があり、地域への影響力もそれほど大きくすることはできない。
そこで、本事業テーマとして設定した「地域デザインを基盤とした、次世代のための異質力育成プログラムの開発」は、和光大学における現代人間学部・表現学部・経済経営学部の全3学部の学びのコアであるとともに本学の強みとなる「異質力で輝く」人材育成の実践的研究をベースとして、地域の多様な人々と連携活動を希望する全学生やあらゆる授業・課外活動と連携が可能となる情報共有を実践してきた。今後も、本学の学生や教職員との連携により地域活性化を実現したいという企業や市民活動団体、各種行政機関との連携プロジェクト創出と運営やその評価を行うシステムを新たに構築して、組織的かつ継続的に地域活性化を働きかけるものである。

研究活動の経過（800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。）

（１）　和光小学校の活動支援（和光小学校の児童を支援して、各種作業を実施）

・5月12日　2年生2クラスのサツマイモ植え付けと、小麦の収穫体験

・6月16日田植え　・7月23日水田の草取り・9月29日（金）稲刈り、はざかけ

・10月13日（金）脱穀　・12月　１日（金）和光小学校の収穫祭に参加

（２）　おかがみ寺子屋支援事業（川崎市が運営する寺子屋事業の支援（岡上小学校の体験教室）を実施した）

・5月7日(日)岡上小学校正門前の畑にて玉ねぎの体験を開催

・4月 2日（日）岡上小学校下の温室にていちご狩り体験を開催

（３）　川崎市と企業応援センターかわさきによる障がい者雇用支援サポート

・5月19日、6月23日、7月21日、9月29日、11月10日、11月17日、12月1日の金曜日7回実施

・1月22日（月）本年度のフィードバックと次年度の活動に関する打ち合わせ

参加者：川崎市就労支援課　山田、企業応援センターかわさき 荒木、山田貢、倉方、小林猛久、企画室岡本

（４）　その他の活動

・5月21日（日）岡上グリーンツーリズム「玉ねぎの収穫体験」の運営支援（岡上小学校正門前の畑）

・10月9日（日）岡上グリーンツーリズム「秋の収穫体験」の運営支援（岡上小学校正門前の畑）

・5月21日（日）岡上地域で収穫されたブドウで醸造されたワイン試飲や農産品の販売イベントの運営支援

・11月3日（金）岡上地域で収穫されたブドウで醸造されたワイン岡上ヌーボーの解禁イベントの運営支援

研究成果の概要（1000字以内・写真が複数ある場合は、600～800字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

これまでの本研究の取り組みにより、地域産業である農業の6次産業化への貢献、関連産業への学生の就職、履修者の増大などの具体的な成果を残すことができた。特に、JA セレサ川崎　セレサモス麻生店では、2017年7月より岡上エールを常設販売して頂いているが、継続的に売り上げがあり、「和光大学と地域の企業が共同して地元農産品を活用した商品の開発・販売を実現していることは地域経済の活性化に大いに役立つ。今後の量産化や多品種化を待っている」と大きな期待を寄せてくれている。また、昨年度から引き続き本年度も、和光大学生協において、柿のドライフルーツの委託販売を継続している。

さらに、本活動の成果を踏まえて、2019年度からスタートした、岡上「寺子屋おかがみ」事業（麻生区の取り組みとして、地元町内会やNPOなどが運営主体となって岡上小学校の児童の学習支援や体験活動の実施を行う事業）の体験活動の支援が活発化し、SDGsをテーマとしたグリーンツーリズムとしての体験教室も根付いてきた。さらに、本年度で2年目となった、和光小学校（世田谷）の稲作支援は、和光小学校の児童を始め保護者の皆さんから、今後も継続して連携を依頼したいというご好評を頂き、2024年度の実施も確定した。

また、川崎市と企業応援センターかわさきによる障がい者雇用支援についても本格的な共同作業として、全9回実施し、参加者数のべ35人を超えるなどの実績を残した。畑でのサツマイモ収穫、岡上エールのラベル切り取り、コメの袋詰めなど、実際に販売される商品の一部を担当する作業に従事することで、「達成感や緊張感を感じた。」「学生との共同作業がうまくできるように身だしなみや受け答えがうまくできるように気を配った」などの前向きな感想を多数得ることができた。学生にとっても多様な人々と共同作業することで、人の得手不得手に対応して業務を遂行する難しさや重要性を体験できたことは貴重な学びとなった。

今後も、コロナ禍の対策を徹底しながら、地域の小学生の支援を拡大するとともに、授業を基盤とした地域連携・人材育成プロジェクトを発展させ、全学的なシステムとして構築し、それを恒常化させることは、和光大学の地域貢献として大いに価値ある取り組みとなるという確信を得た。

2024年度は、これまでの活動の継続に加えて、岡上地域の自然を中心とした写真を撮影して、四季を通じた岡上地域の魅力を紹介するWebサイトのコンテンツ作りも実施予定である。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等） （発行年は厳密に2022年4月～2023年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）